

# 論文要旨

専攻名 (又は推薦専攻名)	地域イノベーション学専攻	ふりがな 氏 名	みつはし げんいち 三橋 源一
<p>学位論文題目</p> <p>災害対応における組織間協働の歴史的考察 ―鳥羽藩・津藩・岡山藩の比較― (英訳又は和訳: Historical review of interorganizational collaboration in disaster response -comparison of Toba domain, Tsu domain and Okayama domain -)</p> <p>本論文では、江戸期における 3 つの藩、鳥羽藩・津藩・岡山藩の「災害対応政策」を対象に、その確立と変遷について比較を行った後、1850～1854 年の間に各藩を襲った実際の大災害への対策事例を検証した。現代社会は「災害の常態化」により“公助の限界”が示され、“自助と共助の強化”が求められており、これは江戸中期以降災害が多発し、「幕府・藩・民間による災害対応政策の再編成過程」に類似していると推測するためである。</p> <p>調査対象期間は、従来の災害史研究に多くみられる“発災当日から復旧期”の短期間を対象とするものではなく、過去に起こった災害含めて、事前対応から復旧・復興期までを一貫して調査する手法をとった。</p> <p>調査の結果、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 被災民は多面的な関係性を構築しており、その関係性を駆使して災害に対処した。</li> <li>2) 多面的な関係性とは共同体であり、一つの機能的な組織に特化した政策の推進は、共同体を基盤とする領民の反発を招いた。</li> <li>3) 領民の共同体を尊重しつつ、公的機関との中間層に政策の権限委譲を行い、その中間層が公的機関側・領民側双方の共同体に十分参与できるように、多面的な関係を構築する対応をとり、その後政策を貫徹することで、スムーズかつ現場に即した災害対応政策の醸成に成功した。</li> </ol> <p style="text-align: right;">以上が確認された。</p> <p>現代社会への応用として</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 機能的な組織として共同体を分析するのではなく、上記 3) 同様、参加者が研究者側・共同体側双方の共同体に十分関与しながら、共同体自体が強化する方向性に誘導する“研究と現場をつなぐ”研究者のあり方が望ましい。</li> <li>2) 共同体の理解を深めるために、従来の歴史学習法とは異なった「民衆の視点に立った災害史研究」の学校教育等への組み込みが共同体理解を助ける手段となる。</li> <li>3) 災害用備蓄金米を運用する「義倉」制度にならい、地域企業が近隣の避難所に備蓄品を供与することで「従業員・家族の安全配慮」「地域貢献」「CSR」を達成でき、地域住民が“講”を災害対策資金に活用することがセーフティネットを強化する。</li> </ol> <p style="text-align: right;">以上。</p>			